

2011年度

科目名	ジェンダー論(総合講座)A				
担当教員	岡島 克樹				
配当	文 3・教育3・人間3		コード	54053	
開期	前期	講時	金曜日4限	単位数	2
授業テーマ	「性」に関する常識や思い込みを再検討し、個人の「生」をもう一度振り返る。「社会」を形成するさまざまなもの、行政機関や学校、企業、文学やスポーツ健康科学、心理学、経済学といった学問の前提を脱構築し、「社会」の見方を組み立てなおす。				
目的と概要	「性」は、それに関する言説の寡少と過剰の中で、「常識」「思い込み」というものが充満している。例えば、「性別」には「男性」と「女性」の二つしかない、「セクシュアリティ」には「異性愛」しかないと思い込んでいる人が少なくない。ジェンダーエンパワーメント指数(男女の所得格差や議員比率などを考慮してどのくらい生きやすい国なのかを示した数字)ランキングにおいて日本が世界で57位(2009年)であることを紹介すると「驚きました」と感想に書いてくる学生は相変わらず多い。本講は、(1)こうした性に関する思い込みや常識を問うてきたジェンダー論の歴史的発展・関心の変遷に関する基礎的な知識を備えること、(2)ジェンダー論で頻繁に用いられる基本的な用語(性自認、性別、性役割、性差、本質主義・構築主義、脱構築、商品化、ジェンダー・フリー、セックスワーク、ホモフォビア、ホモソーシャルティ、クイア理論、フェミニズム、ポストフェミニズム、バックラッシュ、GEM、FGM(性器切除)等)について理解できることを学習到達目標に設定して授業展開する。本講を通じてジェンダーに関する興味・関心を持ってくれた受講生には、本講で身につける「ジェンダーの「基礎文法」「基本用語」についての知識を駆使して、本講終了後もジェンダーに関する書籍を自力で読み、さらに問題意識を深め、行動していつてもらいたい。				
成績評価法	前期末レポート80%、授業への貢献(外部講師によるレクチャーへの参加、発言等)20%				
テキスト	適宜、コピーを配布する。				
参考書	適宜、紹介する。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	担当教員のネットワークを利用して、ある特定分野に精通した外部講師(外部のゲストスピーカー)を招くことがある。受講生は必ず参加するようにしてください。  適宜、参考図書を伝えるので、可能な限りこれらに目をとおすことを奨励する。				
講義計画					
1回目：自己紹介・本講の学習到達目標の説明・「性」の定義 2回目：「第2波フェミニズム」・・・婦人論の時代から女性学の時代へ（その1） 3回目：「第2派フェミニズム」・・・婦人論の時代から女性学の時代へ（その2） 4回目：女性学からジェンダー研究へ（その1） 5回目：女性学からジェンダー研究へ（その2） 6回目：外部講師（その1） 7回目：外部講師（その2） 8回目：ジェンダー研究の諸特徴のまとめ 9回目：行政とジェンダー―男女共同参画化への取組 10回目：学校とジェンダー―学校は偏ったジェンダー観を再生産する装置？ 11回目：企業とジェンダー―高度経済成長を支えたジェンダーと今後の経済成長を阻むジェンダー 12回目：テレビドラマとジェンダー―1990年代・2000年代のテレビドラマに見るジェンダーの変遷 13回目：学生の関心に従ってジェンダー研究の諸分野を紹介（その1） 14回目：学生の関心に従ってジェンダー研究の諸分野を紹介（その2） 15回目：まとめ					